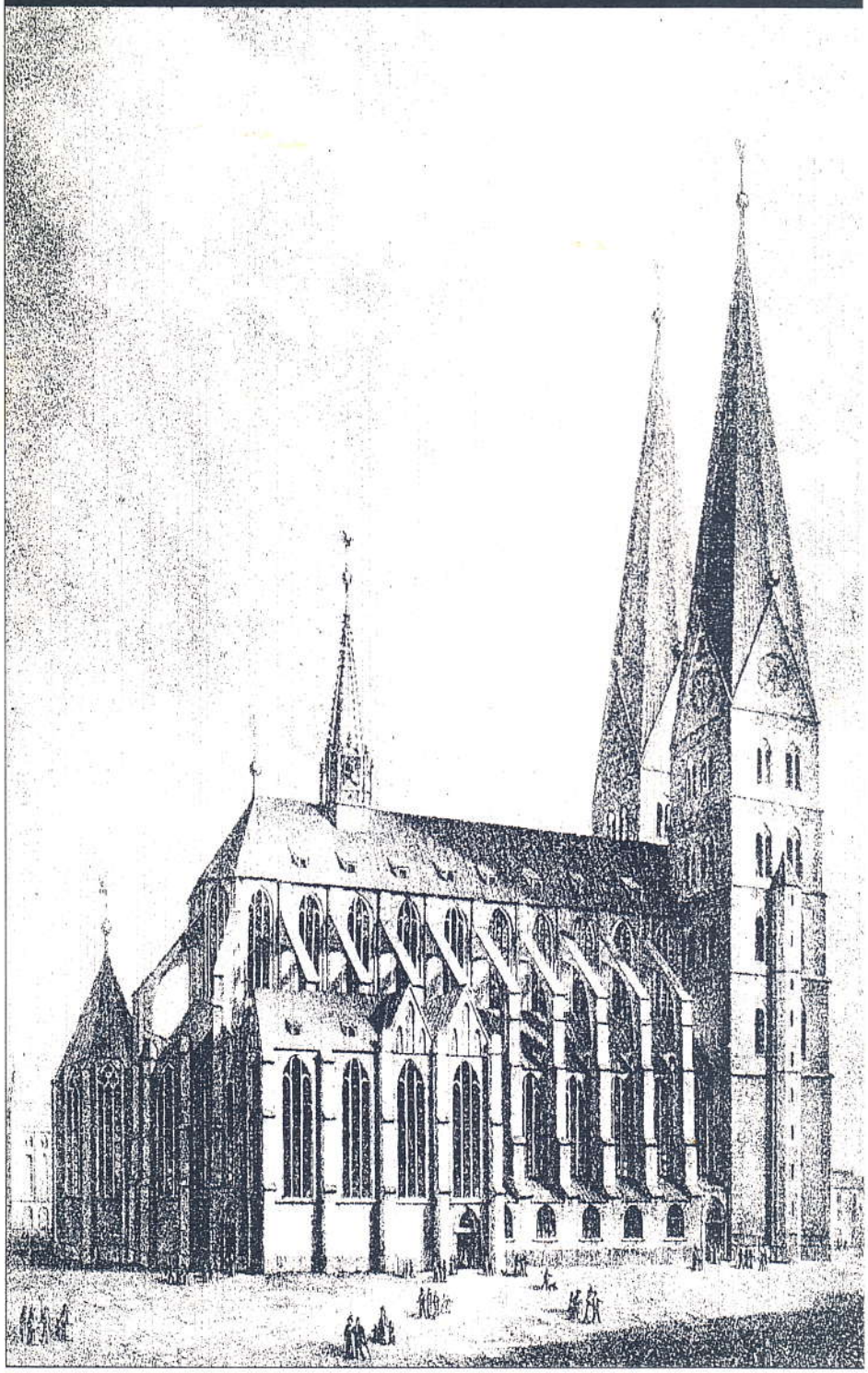
Tokyo Amadeus Chorus

東京アマデウス合唱団
第15回定期演奏会



10/28(土) 午後7:00開演

石橋メモリアルホール

ご あ い さ つ

本日は、第15回定期演奏会の開催に際して、多数の方々のご来場をいただき、厚くお礼を申し上げます。

東京アマデウス合唱団は1980年の創立以来、モーツァルトを中心に置きながら、その時代周辺のバロックから古典派の作品を取り上げ、年間ほぼ一回の割りで発表演奏活動を行ってまいりました。

1987年から指導者に齋藤明生氏を迎えて、音楽創造の一点に集中して基礎的な訓練を怠らずに、かつ理想的な演奏の実現に向けて研鑽を積み重ねてまいりました。近年その成果が現われてきたとの評もいただいておりますが、ここでようやくスタートに辿りついたところというべきでありましょう。

行先の遥か彼方を想いながら、団員一同、これからも一歩ずつ日々の努力を惜しまぬよう心しております。今後とも、皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申しあげます。

昨年、私たちは初の試みとして、渋谷混声合唱団の協力を得て合同演奏会を催し、大規模な演奏を経験いたしました。

今回は本来の姿に立ち戻りますが、ひとたびモーツァルトを離れて、その一時代前の音楽を代表するブクステフーデとバッハの作品を演奏いたします。

今宵、皆様に一片の印象をお持ちいただくことができますなら、私たちにとってこれに優る幸せはありません。

1995年10月28日

東京アマデウス合唱団

団 長　橋 本　克 久

PROGRAM & NOTES

この定期演奏会では、ブックステフーデ（Dietrich Buxtehude 1637?-1707.5.9)とバッハ（Johann Sebastian Bach 1685.3.21-1750.7.28）のキリストの降誕節前後から四旬節にかけての時期に関係のある作品を中心に取り上げて対比させてみることにします。1705年10月アルンシュタットの新教会のオルガニストに就任してわずか二年あまりのバッハが、休暇期限の四週間が切れるのも忘れて約四箇月もの間370 キロも離れた北ドイツのリューベックに滞在して、12月ブックステフーデのレオポルドＩ世の崩御とヨーゼフＩ世の即位を記念してマリア教会で行った「夕べの音楽」に臨んだ事は、よく知られています。バッハはこの時二十一才、ブックステフーデは間もなく七十才になろうとしていました。バッハは翌年2 月21日新教会の聖職会議で厳しい叱責を受け、次の年5 月にはミュールハウゼンの聖ブラジウス教会に転職してしまいました。

ブックステフーデのバッハに及ぼした影響は「トッカータとフーガニ短調」BWV565 などオルガン曲に特に著しいのですが、宗教声楽曲の分野でも、両者の対比はバロック音楽史上興味深い問題を提起してくれます。

D. Buxtehude 1. *D. ブクステフーデ*

小ミサ

Missa Brevis BUXWV 114

この作品については、プロテスタント教会に奉職したブックステフーデの立場から見て真正が疑う説が有り、グローブの音楽辞典もそれを注記しています。しかし、もしブックステフーデの作であるとすれば、彼の唯一の旧い様式による珍しい作品と云えます。彼の自作を一応認めるとすれば、シュッツの教えを受けたヨハン・タイレとの交友関係に注目されます。ミサのスタイルが、シュッツが「教会音楽の理想」として教えたパレストリーナを学んでいるからです。

作品はソプラノが二部に分かれる五声で歌われ、途中微妙な転調で音色を変えて見せる点などにタイレの影響が現れています。Gloriaではテキストの内容や論理よりは表現性が優先され、Miserere nostri 以下に展開される半音階モチーフ、Glorificamus te やgloriaの大胆な表現が注意を引きます。

カンタータ「汝等の言葉もしくは行いをもて為す全てを」

»Alles, was ihr tut mit Worten order mit Werken« BUXWV 4

第二楽章と最終楽章で歌われるコンチェルト（器楽と合唱が共演するアンサンブル）の歌詞がコロサイ書３：１７のルター訳をそのままテキストにして居り、この聖書箇所がイエスの公現の祝日(1月6 日）の第五日曜日に読まれた事から、その日曜日のためのカンタータであるとする説が一般的ですが、作品の規模から何かの大きな祝祭のためか、「夕べの音楽」のために書かれたという考え方も出ています。

導入の第一楽章は所謂バロック・ソナタで、発達したものではなく、アダージョからプレストに転ずるだけのカンツォーナ風の簡素なものですが、プレスト部分の3/4 拍子の舞曲風のリズムが聴き手の好みをそそります。第二楽章のコンチェルトは北ドイツで広く行われていた様式で、合唱もリズミカルに展開します。ここで上記の聖書がイエスの御名による神への服従を呼びかけたあと、冒頭楽章のソナタがもう一度繰り返され、第四楽章では信徒の堅信の応答がアリア（有節形式で反復される歌曲）として合唱によって三節に分けて歌われます。この歌詞は17世紀のもの（作詞者未詳）と云われます。器楽がリトルネルロを繰り返します。第五楽章で、バスがアリオーゾ（アリア風のレチタティーボ）として聖書詩編３７：４を引きながら、堅信を告白する魂に神が再び呼びかけるように歌うと、第六章でソプラノのソロがその御声に深く個人的に応答するように神に対する全き信頼と服従を告白し、合唱がこれに和して神の召命に応えようとする意志を表明します。このソロ及び合唱の歌うコラールは、ゲオルグ・ニーゲ作詞の聖歌＝Aus meines Herzens Grunde'の第６節と第７節を引いています。終楽章でコロサイ書３：１７が繰り返されます。

カンタータ「命の君、イエス・キリストの君よ」

»Du Lebensfürst, Herr Jesu Christ« BUXWV 22

この作品は、復活祭後40日後に行われるキリスト昇天の祝日のためのカンタータであるとする点で諸説一致して居り、確かに冒頭合唱はDu Lebensfürst, Herr Jesu Christ, der du bist auf genommen gen Himmel《天にあげられ給いし命の君、イエス・キリストの君よ》と歌います。だが、この作品の主要内容は、よみがえられて死に打ち勝たれたキリストに、迫り来る死の恐怖を逃れて永遠のパラダイスを求めようとする人間の叫びです。一般のキリスト昇天の祝日に歌われるコラールに比べて、迫力に満ちたものに成っています。謂わば、プロテスタント版 Te Deumと云うところでしょうか。

導入はヴィヴァーチェで演奏されるバロック・ソナタで始まり、激しさを伴った固く刻むようなリズムで進行します。続いて合唱が歌い出すキリストの昇天を讃える言葉は、昇天を語る前半が上昇音型でコラール風に歌われ、後半は再びソナタのリズムに戻って、しかもここでは激しさを抑えてキリストの勝利を讃えようとする心を歌います。この基本リズムは戦いと勝利を象徴するのでしょう。改めてソプラノとアルトのデュエットが賛美を高らかに歌い納めます。するとリトルネルロが奏でられ、バスのソロが勝利者の凱旋を描き出します。mit Jauchzen《喜びの声をあげ》のところはスキップを踏むように歌われます。次にアルト、テノール、バスの三重唱がきわめて詩的な表現で、死の不安に怯えながら、信仰に救いを求めようとする心を歌います。ここでまたリトルネルロがあり、リズムが変わって、冒頭で歌ったコラール旋律に戻り、自分を迎えるキリストの来臨を待望する祈りを合唱が歌い、Alleluiaで終わります。

モテット「かかる厚き御意のすべてをほめたたえ」

»All Solch dein Güt wir preisen«　BUXWV 3

キリストの割礼の祝日（1 月1 日）のための五声のモテットで、紛失した或る大きな作品の最後の部分と考えられています。ポール・エーバー作の新年コラール Helft mir Gotts Güte preisen の最後の節を改作したものです。

ヴァイオリンによる導入のあとヴィオローネが四小節の主題を先ず提示し、合唱もバスが主題を歌います。やがて、ソプラノがこれを承けて歌節の前半を歌い終わると、拍子は4/4 から3/2 に変わり、歌節の後半(Gib uns ein fröhlichs Jahre以下) が新年を迎える喜びを表わすように舞曲風に飾られ、祈りの部分の後半(und nähr uns)は次第に高潮するように歌われる。最後は4/4 に戻り、速めのテンポで華麗なシャコンヌ風の Amen で終わります。

休　憩

J. S. Bach　2.　*J. S.* バッハ

カンタータ182番「天の王君、ようこそ」

»Himmelskönig, sei willkommen«　BWV 182

バッハはヴァイマール時代に20曲ほどのカンタータを作曲しましたが、宮廷オルガニストから楽師長に昇進した1714年、四週間毎にカンタータを作曲する義務を遂行するため作った最初の作品がこの曲で、3 月25日枝の主日（キリストのエルサレム入城を覚える日）に城内礼拝堂で初演されました。1724年3 月25日にはライプチヒで聖マリア御告げの祝日にこの曲が再び取上げられました。

導入はブックステフーデの作品と同様バロック・ソナタで始まり、独奏ブロックフレーテとヴァイオリンがヴィオラ、通奏低音のピッチカートに乗って、ト長調ですが哀愁をたたえた付点リズムの旋律でキリストの入城を描き出します。この付点リズムは十字架へ向かうキリストの歩みを象徴するモチーフです。続く冒頭合唱は、キリストの入場を迎える大衆の歓呼と重ねて、キリストを迎える魂の声をダ・カーポで繰り返しながらカノン風に表現します。歌詞の中の「シオンと成し給え」は自分を神の神殿とする事で、第一コリント3:16～17に基づいています。すると、バスがレチタティーボでルター訳の聖書から詩編40:8b ～9aの部分を借りて、キリストを迎える魂の服従の告白をします。続くアリアは、イエスが栄光の御座から降りられて、この世のために替わって犠牲と成り、血を流された強い愛を讃えます。ここでアルトがアリアを歌い、キリストを信じる魂に献身を呼び掛けます。これに対してテノールが信仰の勝利の冠と棕櫚の葉（勝利の象徴）を望みつつ、十字架の道を進むイエスに自分を伴い給えと歌います。このアリアは特に表現豊かに歌われます。第七楽章のコラールは、シュトックマン作のコラールJesu Leiden, Pein und Todの第33節から引用し、各パートが旋律を模倣し合いながら歌い、やがてソプラノがそれを引き伸ばした長い音符で歌い始めると他のパートがそのカウンター的な役割を演じてこれを引立てます。終曲合唱では、器楽の奏でるリトルネルロに導かれ、またこれを挟みながら、王君イエスに随い喜びのエルサレムへ向かう魂達の意志が表現されます。

野口　碩

P R O F I L E

指揮／バス
斎藤 明生

東京芸術大学卒業、同大学院修了。芸大定期演奏会のブラームス「ドイツ・レクイエム」でソリストに選ばれた他、在学中よりベートーヴェン「交響曲第九番」や多くの宗教音楽のソリストを務める。92年には独ライプチヒ聖トーマス教会においてH.J. ロッチュ指揮によるカンタータ礼拝式にソリストとして出演した。また在学中より在籍している芸大バッハカンタータクラブでは多年にわたり演奏委員長を務める。声楽を岳藤豪希、R. フィッシャー、Ph.フィッテンロッハー、宇田川貞夫に、宗教音楽を小林道夫、岳藤豪希の各氏に師事。現在宗教音楽研究会合唱団、渋谷混声合唱団指揮者。87年から当合唱団の指導に当っている。

ソプラノ
高橋 節子

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修了。在学中に芸大バッハカンタータクラブに在籍。芸大定期演奏会においてハイドン「天地創造」にソリストとして出演する他、多くの宗教曲のソリストを務める。92年バッハアカデミー(独)に参加、H. リリング指揮の演奏会にソリストとして出演。93年日演連新人推薦演奏会（札幌）に出演。93～94年国際ロータリー財団奨学生として、独フライブルクに留学。藤田道子、戸田敏子、伊原直子、E·M マイヤーオルバースレーベンの各氏に師事。

カウンターテナー
米良 美一

洗足学園大学卒業。岡崎寛俊、柳沢涼子、平松英子、宇田川貞夫、M.V.エグモントの各氏に師事。滝廉太郎音楽祭西日本高等学校独唱コンクール第３位及び朝日新聞社賞受賞。94年第８回古楽コンクール<山梨>において最高位。併せて、栃木「蔵の街」音楽祭受賞、同音楽祭においてソロ・リサイタルを務める。また、日本歌曲を三宅春恵氏に師事95年第６回奏楽堂・日本歌曲コンクールで第３位。同年５月セシルレコードよりＣＤ「アリアンナの嘆き」をリリースする。現在はバッハ・コレギウム・ジャパンを中心にソリストとして各地で活躍中。

テノール
中嶋 俊夫

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院音楽研究科を修了。イタリアのマチェラータ大学に留学。故柴田睦陸、吉岡巌、木川田誠、Rossana Bertiniの各氏に師事。
グループ「レ・カマラード」のメンバーとして定期的にコンサートを行う一方、「メサイヤ」など宗教曲のソロも務めている。

オルガン
水野 克彦

東京芸術大学卒業。ピアノを滝崎鎮代子、クラリネットを千葉国夫、室内楽を細野孝興の各氏に師事。オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏に受ける。オルガン通奏低音のほか、合唱指導、ピアノ伴奏、作曲と幅広く活動。二度のオルガンリサイタルのほか、東京大学教養学部オルガン演奏会、フランス文学会オルガン演奏会、ドイツ文学会オルガン演奏会等に出演。茗荷谷キリスト教会オルガニスト。日本オルガニスト協会会員。日本オルガン研究会会員。

東京アマデウスアンサンブル

海保あけみ(Vn)　大田也寸子(Vn)　深沢美奈(Vla)
幡谷久仁子(Vla)　牧野ルル子(Vc)　田邊朋美(Cb)
吉澤徹(Rec)

東京アマデウス合唱団

ソプラノ　浦川聡子　大久保ルミ子　加藤多恵子　桑島 加代子
斎藤千恵　佐藤裕子　鈴木奈々子　辻村順子
寺田美穂子　永瀬久子　村松あおい　吉田弘美

アルト　相沢美佐　甘粕利枝　石橋真須枝　伊藤正子　大崎己美代
加藤尚子　国府田文子　重泉秀子　菅原芳子　武井佳代子
辻敏子　野田妙子　平野玲子　宮崎米子　山中ゆりか

テノール　伊原宏　片岡繁　中屋哲夫　松平新太郎
柳沢琢磨　吉田英人

ベース　柿沼晢　菅原定三　野口碩　橋本克久

1981 February	**Mozart**	**:RÈQUIEM**
1981 November	**Händel**	**:MESSIHA**
1982 November	**Fauré**	**:RÈQUIEM**
1983 September	**Mozart**	**:KRÖNUNGS MESSE**
1984 September	**Mozart**	**:RÈQUIEM**
1985 October	**Bach**	**:KANTATE Nr.106**
1986 October	**Mozart**	**:GROSSE MESSE**
1987 October	**Schütz**	**:MUSIKALISCHE EXEQUIEN**
1988 December	**Mozart**	**:VESPERAE**
1989 November	**Mozart**	**:RÈQUIEM**
1991 February	**Mozart**	**:LITANIAE**
1991 November	**Mozart**	**:DOMINICUS MESSE**
1992 Nov.	**Charpentier**	**:MESSE DE MINUIT POUR NOËL**
1993 November	**Mozart**	**:MiSSA BREVIS**
1994 November	**Mozart**	**:RÈQUIEM** (JOINT CONCERT)
1995 October	**Bach**	**:KANTATE Nr.182**

歌　詞　対　訳

〈第一ステージ〉

Missa Brevis　　Dietrich Buxtehude

1.Kyrie

Kyrie eleison.	主よ、あわれみ給え。
Christe eleison.	キリストよ、あわれみ給え。
Kyrie eleison.	主よ、あわれみ給え。

2.Gloria

Gloria in excelsis Deo.	いと高き処には栄光、神にあれ。
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.	そして地には平和、善意の人々にあれ。
Benedicimus te.	汝を拝みまつる。
Adoramus te.	汝をあがめまつる。
Glorificamus te.	汝の栄光をたたえまつる。
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.	汝の大いなる栄光のゆえに感謝を表しまつる。
Domine Deus,Rex coelestis,Deus Pater omnipotens.	神、即ち天の王、全能の御父にます神なる主よ。
Domine Fili unigenite.	御ひとり子なる主よ。
Jesu Christe.	イエス・キリストよ。
Domine Deus,Agnus Dei,Filius Patris.	神にして、神の小羊、御父の御子なる主よ。
Qui tollis peccata mundi,miserere nostri, suscipe deprecationem nostram.	世の罪を除き給う君、我らをあわれみ給え、我らの赦しの願いを受けいれ給え。
Qui sedes ad dexteram Patris,miserere nostri.	御父の右に座し給う君、我らをあわれみ給え。
Quoniam tu solus sanctus Dominus.	汝のみ聖なる主にませば。
Tu solus Altissimus,Jesu Christe.	汝のみいと高し、イエス・キリストよ。
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.	父なる神の栄光のうちにいます聖霊とともに。
Amen.	アーメン。

《Alles was ihr tut mit Worten oder mit Werken》　　Dietrich Buxtehude

1.Sonata(器楽曲)

2.Concerto(合唱+器楽)

Alles,was ihr tut,mit Worten oder mit Werken,	汝等の言葉や行いをもて為す全てを
das tut alles im Namen Jesu,	ことごとくイエスの御名によって為し、
und danket Gott und dem Vater durch ihn.	イエスによって父なる神に感謝せよ。

3.Sonata(器楽曲)

4.Aria(合唱によるアリア)

1.Dir,dir,Höchster,dir alline alles,	君よ、君よ、いと高き君よ、たぐいなき君よ、
Allerhöchster,dir,Sinne,Kräfte und Begier	至高の君よ、我は汝に思いも力も望みも
ich nur aufzuopfern meine.	ひたすらささげんと思うのみ。
Alles sei nach aller Pflicht	すべては全き義務に従いて、
nur zu deinem Preis gericht't.	ただ汝の栄光にのみ向けられんことを。
2.Helft mir spielen, jauchzen, singen,	われを助けて、奏でつつよろこび歌い、
hebt die Herzen himmelan,	心を天へのぼらせ、
jubele, was jubeln kann,	声の限り歓喜して叫ばしめ、
laBt all' Instrumente klingen.	あらゆる楽器を鳴り響かせ給え。
Alles sei nach aller Pflicht	すべては全き義務に従いて、
nur zu deinem Preis gericht't.	ただ汝の栄光にのみ向けられんことを。
3.Vater,hilf um Jesu willen,	父よ、イエスのゆえに助けて
laB das Loben löblich sein	この賛美を妙なるものとならしめ、
und zum Himmel dringen ein,	天にまで届かせ給え、
unser Wünschen zu erfüllen,	われらの望みを充たすべく、
daB dein Herz nach Vaterspflicht	御父の勤めに忠実なる汝の御心
sei zu unserm Heil gericht't.	われらがために向けられよと願うを。

5.Arioso(バスによるアリアとレチタティーボの中間的歌唱)

Habe deine Lust am Herrn,	主にある喜びを抱け、
der wird dir geben,was dein Herz wünscht.	主は汝が心の望むものを賜わるべし。

6.Choral(コラール)

Got will ich lassen raten,	神は御言葉に我が耳を傾けんことを望み給う、
denn er all Ding vermag;	彼はすべての事を為し得ればなり。
er segne meine Taten,mein Vornehmen und Sach.	神は我が行い、我が決心とふるまいを祝福し給う。
Ihm hab'ich heimgestellt mein'Leib,mein'Seel,	我はおのが身とおのが魂と
mein Leben,und was er sonst gegeben;	おのが命とほかに賜いしものを神に帰しまつりぬ、
er mach's, wie's ihm gefällt.	御意のままに為し給えと。

7. Darauf so sprech ich Amen und zweifle nicht daran:

Gott wird es all's zusammen ihm wohlgefallen lan;	されば、我れそをアーメンと言いて疑わず、
und streck nun aus mein'Hand,	神はそをことごとく御意に適わしむればなり。
greif an das Werk mit Freuden,	これよりは、我が手を伸べ、
dazu mich Gott bescheiden	喜びて手を染めん、
in mein'm Beruf und Stand.	神の召し給うわざに、
	おのが生業、おのが居る場所にて。

8.Concerto(合唱+器楽)

Alles,was ihr tut,mit Worten oder mit Werken,	汝等の言葉や行いをもて為す全てを
das tut alles im Namen jesu,	ことごとくイエスの御名によって為し、
und danket Gott und dem Vater durch ihn.	イエスによって父なる神に感謝せよ。

《Du Lebensfürst,Herr Jesu Christ》 Dietrich Buxtehude

Chor

Du Lebensfürst,Herr Jesu Christ,	命の君よ、イエス・キリストの君よ、
der du bist aufgenommen gen Himmel,	汝は御父と忠実なる軍勢のいます
da dein Vater ist und die Gemein der Frommen.	天にあげられ給えり。
Wie soll ich deinen großen Sieg,	われは汝のきびしき戦いを経て
den du uns durch den schweren Krieg erworben hast,	勝ち得させ給いし大なる勝利を
recht preisen	真心よりほめたたえ、
und dir gnug Ehr erweisen.	あふるる誉れを明かしたてまつるべきかな。

Duett

Du hast die Höll und Sündennot ganz ritterlich	汝は地獄と罪の苦しみとにいと気高くも
bezwungen,du hast den Teufel,Welt und Tod	打ち勝ち給い、悪魔とこの世と死とを
durch deinen Tod verdrungen,	汝の死によりて取り除き給い、
du hast gesieget weit und breit,	広くはてはてまで勝ちをおさめ給えり。
wie soll ich solche Herrlichkeit,o Herr,	おゝ主よ、我はその栄光を、
in diesem Leben gnug würdiglich erheben.	この生涯にて稜威あまれるほどに高揚すべきかな。

BaB-Solo

Du starker Herrscher fährest auf	いと力ある統治者にます汝が
mit Jauchzen und Lobsagen	喜びの声をあげ、賛美を語りつつ乗り付くれば、
und gleich mit dir in vollem Lauf	フルスピードにて汝の伴を為す、
auch mehr denn tausend Wagen,	千輛以上の車も。
du fährest auf mit Lobgesang	君が賛美を歌いつつ乗り付くれば、
es schallet der Posaunen Klang,	ラッパ鳴り響き渡る。
mein Gott, vor allen Dingen	わが神よ、何より
will ich dir auch lobsingen.	我も汝に賛美の歌を捧げん。

Terzett(三重唱)

Zieh uns dir nach,so laufen wir,
gib uns des Glaubens Flügel,hilf,
daß wir fliehen weit
von hier auf Israelis Hügel.
Mein Gott,wann fahr ich doch dahin,
wo ich ohn Ende frölich bin,
wann werd ich vor dir stehen,
dein Angesicht zu sehen?

御許に招き給え、さらばわれら走り行くべく、
信仰の翼を与え、助け給え、
遠く逃れ去るを、
このイスラエルの丘より。
わが神よ、されどいつ我この世を去りて行くや、
とこしえに楽しきところへ?
いつ御前に立つや、
御顔を仰がんとて?

Chor
Wann soll ich hin ins Paradies zu dir,
  Herr Jesu, kommen,
wann kost ich doch das Engelsüß,
wann werd ich aufgenommen?
mein Heiland, komm und nimm mich an,
auf daß ich frölich jauchzen kann
  und klopfen in die Hände:
Alleluia ohn Ende,alleluia.

いつ我はみもとパラダイスへ
　　イエス君よ、参るべきや?
そもそもいつ死の薬草を味わうや、
いつ迎えを受くるや?
わが救い主よ、来たりて我を受け取り給え、
それにて我喜び叫び、
　　手を打つを得べく。
とこしえにアレルヤ、アレルヤ。

《All solch dein Güt wir preisen》　　Dietrich Buxtehude

All solch dein Güt wir preisen,
Vater im Himmelsthron,
die du uns tust beweisen durch Christum,deinen Sohn,
und bitten ferner dich:
Gib uns ein fröhlichs Jahre, vor allem Leid bewahre
und nähr uns mildiglich.Amen.

かかる厚き御意のすべてをほめまつる、
天の御座にいます父よ、
御子キリストにより証し給いし厚き御意を、
そして、今よりのち頼みまつる。
めでたき年を与え、全ての悩みより守り、
やさしくわれらをはぐくみ給え。アーメン。

休　　憩

〈第二ステージ〉

Kantate Nr. 182　Johann Sebastian Bach BWV 182

1.Concerto(合奏)

2.Coro(合唱)

Himmelskönig,sei willkommen,
lass auch uns dein Zion sein!
Komm herein!
Du hast uns das Herz genommen,
Himmelskönig,sei willkommen,
lass auch uns dein Zion sein!

天の王君、ようこそ、
われらをも汝のシオン〈神の神殿〉となし給え!
入り来ませ!
汝われらの心をおのがものとなし給えば、
天の王君、ようこそ、
われらをも汝のシオンとなし給え!

3.Recitativo(バスの叙唱) ── ルター訳による詩篇40:8,9ダビデの歌の一節

Siehe,ich komme.
Im Buch ist von mir geschrieben:
Deinen Willen,mein Gott,thu'ich gerne.

視よ われきたらん
わがことを書の巻にしるしたり
わが神よ われは汝の御意をおこなうことを喜ぶ。

4.Aria(バスのアリア)

Starkes Lieben, das dich, grosser Gottessohn,
von dem Thron deiner Herrlichkeit getrieben,
starkes Lieben, dass du dich zum Heil der Welt
als ein Opfer fürgestellt,
dass du dich mit Blut verschrieben.
Starkes Lieben, das dich, grosser Gottessohn,
von dem Thron deiner Herrlichkeit getrieben.

強き愛かな、いと大いなる神の御子なる汝を
その栄光の御座より駆り立てしとは。
強き愛かな、汝みづからをこの世のために
犠牲として身替わりに立て給い、
血を流して身をささげ給いしは。
強き愛かな、いと大いなる神の御子なる汝を
その栄光の御座より駆り立てしとは。

5.Aria(アルトのアリア)

Leget euch dem Heiland unter,
Herzen,die ihr christlich seid.

救い主に謙りて仕えよ、
キリストを信ずる魂らよ。

Tragt ein unbeflektes Kleid eures Glaubens
ihm entgegen,
Leib und Leben und Vermögen
sei dem König itzt geweiht.

しみなき汝等の信仰の衣を身にまといて
主を迎え、
身体も命もたからも
今こそ聖別して王君のものと成せよ。

6.Aria(テノールのアリア)

Jesu, lass durch Wohl und Weh
mich auch mit dir ziehen.
Schreit die Welt nur „Kreuzige!",
so lass mich nicht fliehen.
Herr,vor deinem Kreuz-Panier
Kron' und Palmen find'ich hier.
Jesu, lass durch Wohl und Weh
mich auch mit dir ziehen.

イエスよ、幸せのときにも悩みのときにも、
我れをも伴いて進み行かせ給え。
世人は「十字架につけよ!」と叫ぶのみ。
されば、我れを逃げ去らす勿れ。
主よ、汝の十字架の御旗の前にてこそ
我れは(勝利の)冠と棕櫚の葉を見出すものを。
イエスよ、幸せのときにも悩みのときにも、
我れをも伴いて進み行かせ給え。

7.Choral(コラール)

Jesu,deine Passion ist mir lauter Freude,
deine Wunden,Kron'und Hohn
meines Herzens Weide;
meine Seel'auf Rosen geht,
wenn ich dran gedenke;
in dem Himmel eine Statt uns deswegen schenke.

イエスよ、汝の御受難は我には偽りなき誠の喜び、
汝の受けし傷も(いばらの)冠もあざけりも
我が心を喜ばしむるもの。
我が魂はバラの上を行くが如し、
その事を想い起こすとき。
天にひとつの場所をこれらのゆえに我等に賜え。

8.Schlusschor(終曲合唱)

So lasset uns gehen in Salem der Freuden,
Begleitet den König in Lieben und Leiden!
Er gehet voran und öffnet die Bahn.

いざ、我らこぞりて喜びのエルサレムへ行かまし、
愛と苦しみの中を王君に随いて!
王君先立ち行きて、道を開き給えば。

訳：野口　碩